

令和7年度

佐賀県小・中学校学習状況調査
及び 全国学力・学習状況調査

— 調査結果 と 指導改善のポイント —

中学校数学科

- 1 はじめに
- 2 調査結果の概要
- 3 成果が見られた設問
- 4 課題が見られた設問
- 5 指導改善のポイント
- 6 同一生徒の経年比較
- 7 おわりに

1 はじめに

佐賀県教育委員会では、児童生徒の**学習状況を把握・分析**し、児童生徒への**教育指導の充実**や**学習状況の改善**等に役立てることを目的に、佐賀県小・中学校学習状況調査を行っています。

また、全国学力・学習状況調査の結果と**一体的に分析**することで、各学校における**学力向上に向けた検証改善サイクルの確立**につなげています。

令和7年度
学校における
学力向上の
検証改善サイクル

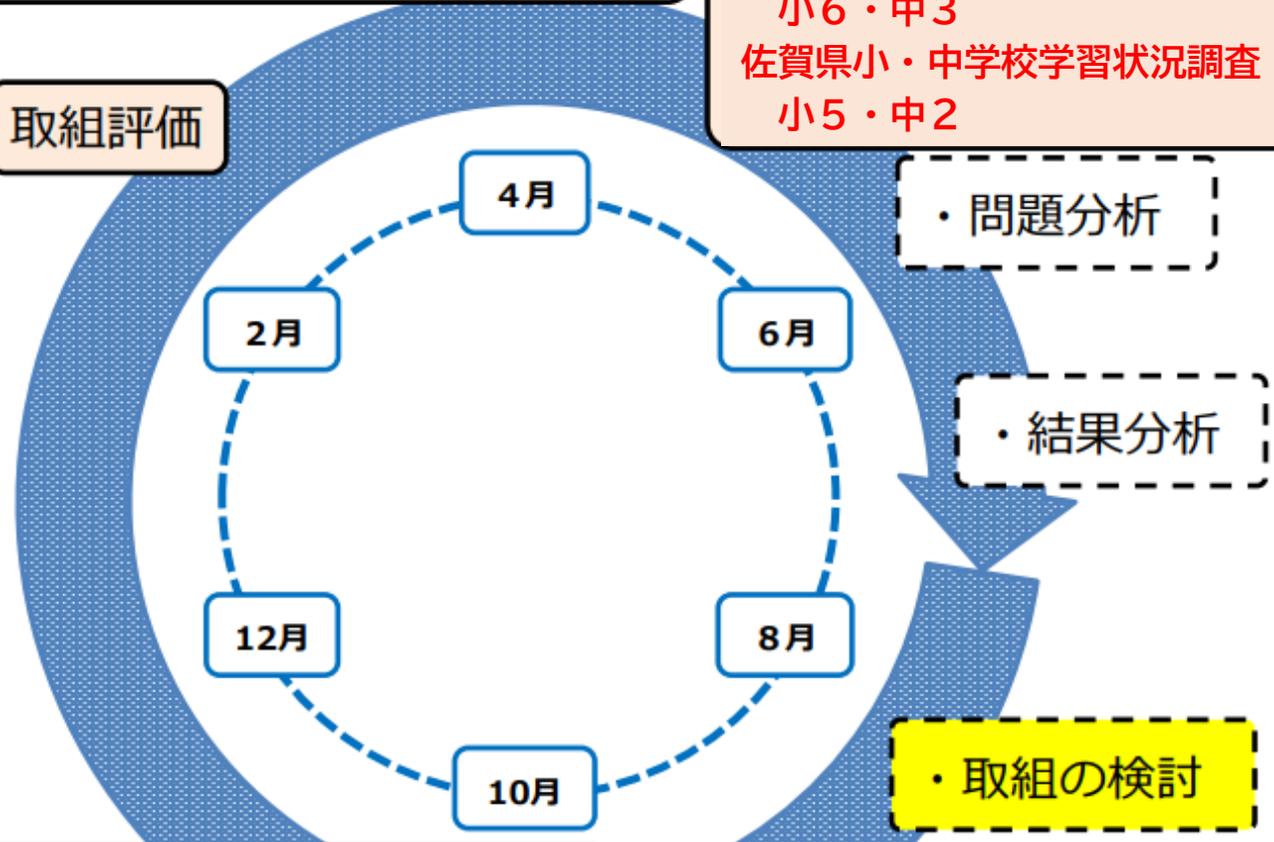
○1年間の大きな
サイクルの中で、
個々の取組に関
する小さな検証
改善を行う

検証改善サイクルを
確立・機能させるこ
とにより、児童生徒
の学力向上を図りま
しょう。

・課題解決に向けた取組の共通認識、
円滑な取組のスタート(評価シート)

【令和7年4月17日】
全国学力・学習状況調査
小6・中3
佐賀県小・中学校学習状況調査
小5・中2

取組評価



○「評価シート」の効果的な活用による改善に向けた取組の徹底

・改善に向けた取組

2 調査結果の概要

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《教科全体》

中2数学

年度	県平均正答率	目標値
R7	52.5 %	56.7 %
R6	53.0 %	56.7 %

目標値との差
(県平均正答率 - 目標値)

-4.2

-3.7

※目標値・・・学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童生徒の割合

R7の県平均正答率は、目標値を4.2ポイント下回った。
また、R6と比べると、目標値との差が大きくなった。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《観点別》

知識・技能

中2数学

年度	県平均正答率	目標値
R7	56.0 %	59.3 %
R6	58.3 %	60.4 %

目標値との差
(県平均正答率 - 目標値)

-3.3

-2.1

R7の県平均正答率は、目標値を3.3ポイント下回った。
また、R6と比べると、目標値との差が大きくなった。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《観点別》

思考・判断・表現

中2数学

年度	県平均正答率	目標値
R7	45.5 %	51.5 %
R6	30.4 %	40.8 %

目標値との差
(県平均正答率 - 目標値)

-6.0

-10.4

R7の県平均正答率は、目標値を6.0ポイント下回った。
しかし、R6と比べると、目標値との差が小さくなった。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《領域別》

中2数学

領域	年度	県平均正答率	目標値	目標値との差 (県平均正答率-目標値)
A 数と式	R7	59.4 %	62.0 %	-2.6
	R6	58.6 %	61.4 %	-2.8
B 図形	R7	53.4 %	60.0 %	-6.6
	R6	56.4 %	58.3 %	-1.9
C 関数	R7	47.4 %	50.0 %	-2.6
	R6	45.6 %	47.5 %	-1.9
D データの活用	R7	44.4 %	50.0 %	-5.6
	R6	44.1 %	53.3 %	-9.2

R7の県平均正答率は、全ての領域で目標値を下回った。
しかし、R6と比べると、「数と式」「データの活用」で改善が見られた。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《教科全体》

中3数学

年度	県 平均正答率	全国 平均正答率
R7	44 %	48.3 %
R6	48 %	52.5 %

※全国調査の教科全体の県平均正答率は、文部科学省から整数値で提供されています。

R7の県平均正答率は、R6に引き続き、全国平均正答率を下回った。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《観点別》

知識・技能

中3数学

年度	県 平均正答率	全国 平均正答率
R7	51.0 %	54.4 %
R6	58.9 %	63.1 %

全国平均正答率との差
(県平均正答率 - 全国平均正答率)

-3.4

-4.2

R7の県平均正答率は、全国平均正答率を3.4ポイント下回った。
しかし、R6と比べると、全国平均正答率との差が小さくなった。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《観点別》

思考・判断・表現

中3数学

年度	県 平均正答率	全国 平均正答率
R7	34.1 %	39.1 %
R6	23.2 %	29.3 %

全国平均正答率との差
(県平均正答率 - 全国平均正答率)

-5.0

-6.1

R7の県平均正答率は、全国平均正答率を5.0ポイント下回った。
しかし、R6と比べると、全国平均正答率との差が小さくなった。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《領域別》

中3数学

	領域	年度	県平均正答率	全国平均正答率
A	数と式	R7	37.7 %	43.5 %
		R6	45.3 %	51.1 %
B	図形	R7	41.8 %	46.5 %
		R6	33.8 %	40.3 %
C	関数	R7	45.8 %	48.2 %
		R6	57.8 %	60.7 %
D	データの活用	R7	56.7 %	58.6 %
		R6	51.4 %	55.5 %

全国平均正答率との差
(県平均正答率 - 全国平均正答率)

-5.8

-5.8

-4.7

-6.5

-2.4

-2.9

-1.9

-4.1

R7の県平均正答率は、全ての領域で全国平均正答率を下回った。
しかし、R6と比べると、「図形」「関数」「データの活用」で改善が見られた。

第2学年では、令和6年度の調査結果と比べると、以下の点において、改善が見られた。

- 観点別の県平均正答率 「思考・判断・表現」
- 領域別の県平均正答率 「数と式」「データの活用」

第3学年では、令和6年度の調査結果と比べると、以下の点において、改善が見られた。

- 教科全体の県平均正答率
- 観点別の県平均正答率 「知識・技能」「思考・判断・表現」
- 領域別の県平均正答率 「図形」「関数」「データの活用」

3 成果が見られた設問

◇同類項をまとめることができる。(中2)

◇数量の間の関係を不等式に表すことができる。(中2)

◇相対度数の意味を理解しているかどうかをみる。(中3)

4 課題が見られた設問

- ◆ $\triangle ABC$ で、辺 BC の垂直二等分線を作図してできた中点と頂点 A を通る線が面積を二等分することを理解している。(中2)
- ◆ 素数の意味を理解しているかどうかをみる。(中3)
- ◆ 与えられた式の関係が反比例であると判断し、式の特徴をもとに判断の理由を説明することができる。(中2)
- ◆ 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる。(中3)

5 指導改善のポイント

△ABCで、辺BCの垂直二等分線を作図してできた中点と頂点Aを通る線が面積を二等分することを理解できるようにするためには、次のような指導改善を行うことが大切です。

- 基本的な作図の学習では、図形の対称性や図形を決定する要素に着目して作図の方法を見いだすだけでなく、作図の方法を図形の性質や関係に基づいて説明する学習活動を設定する。
- 作図を利用する学習では、図形の性質を見いだしたり、筋道立てて説明したりして、作図から分かる図形の性質を表現する学習活動を設定する。

授業の場面においては、
生徒の思考を促す発問をすることが大切です。

発問例

- 1 どのような線をかけばいいのかな？（見通す）
- 2 どのような線を書くことができたらいいいのかな？（予想する）
- 3 問題で与えられた線がかけたかな？（吟味する）
- 4 根拠を示して説明できるかな？（説明する）

素数の意味を理解できるようにするためには、次のような指導改善を行うことが大切です。

- 整数の性質について考察する場面において、整数を様々な視点で分類し、1より大きい自然数のうち、1とその数自身以外には約数をもたない数の集合が素数であることを確認する。その際、「なぜ1は素数ではないのか」を生徒なりに考える場面を設定する。
- その後の学習において素数を用いる際に、1は素数に含まれないことを再確認するような場面を意図的に設定する。

事柄が成り立つ理由を、根拠を明らかにして説明できるようにするためには、次のような指導改善を行うことが大切です。

- 計算結果の式をどのような形に変形すればよいのかという見通しをもち、事柄が成り立つ理由を、構想を立て、文字式や言葉を用いて説明する学習活動を設定する。

- 「○○であるから、△△である。」のような形で、「根拠(○○)」と、「成り立つ事柄(△△)」の両方を記述する学習活動を設定する。

6 同一生徒の経年比較

6 同一生徒の経年比較

〈 県調査結果と全国調査結果との比較 〉

	小学校			中学校		
学年	第1学年～ 第4学年	第5学年	第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
県調査 (4月実施)	第4学年までの 学習における 「強み」「弱み」 の把握	国語 算数		第1学年までの 学習における 「強み」「弱み」 の把握	国語 数学 英語	
全国調査 (4月実施)			国語 算数 (理科)			国語 数学 (理科・英語)

() 内教科…3年に1回実施

各学校において、経年比較における分析も行ってみましょう。

6 同一生徒の経年比較

〈 R 7 全国調査結果と R 6 県調査結果との比較 〉

領域	R 7 全国調査 対全国比※1	R 6 県調査 対全国比※2	R 7 - R 6
A 数と式	0.87	0.99	-0.12
B 図形	0.90	0.96	-0.06
C 関数	0.95	1.00	-0.05
D データの活用	0.97	0.88	+0.09

※1 全国調査対全国比 … 県平均正答率÷全国平均正答率

※2 県調査対全国比 … 県平均正答率÷調査に参加している生徒（各教科約10万人）の平均正答率

参考として、対全国比で比べると、「データの活用」で改善が見られた。

7 おわりに

まずは、以下の点において指導改善を図りましょう。

- ◆ 図形の対称性や図形を決定する要素に着目して作図の方法を見いだすだけでなく、作図の方法を図形の性質や関係に基づいて説明できるようにする。
- ◆ 素数の意味を理解できるようにする。
- ◆ 事柄が成り立つ理由を、根拠を明らかにして説明できるようにする。

佐賀県
教育センター

サイト内検索

検索ワードを入力してください

各種研修

受講のための情報

受講者へのお願い

オンデマンド受講者専用ページ

駐車場の利用について

申込等各種手続

授業に役立つコンテンツ

授業に役立つ実践研究

学習評価の進め方

SAGAせ〜る指導案

学習状況調査

授業に役立つ実践研究

令和6年度の研究成果

プロジェクト研究			
校種	教科・領域	研究主題：「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に役立つコンテンツ	
小学校	各教科	【小学校国語科】	授業改善に役立つコンテンツ new
		【小学校算数科】	授業改善に役立つコンテンツ new
中学校	各教科	【中学校国語科】	授業改善に役立つコンテンツ new
		【中学校数学科】	授業改善に役立つコンテンツ new
		【中学校英語科】	授業改善に役立つコンテンツ new
個別実践研究（教育センター所員がチームを組んで取り組んだ研究）			
小学校	各教科・領域等	指導と評価の一体化を図るためのコンテンツの開発 new	
		社会科、算数科、図画工作科、外国語科、道徳科、学校保健	
中学校	各教科・領域等	指導と評価の一体化を図るためのコンテンツの開発 new	
		理科、音楽科、美術科、技術・家庭科（家庭分野）、道徳科	

授業に役立つコンテンツ

授業に役立つコンテンツ

○中学校数学科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

令和6年度 佐賀県教育センター プロジェクト研究(中学校数学科教育研究委員会)

中学校 数学科

中学校数学科における
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

1 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、数学的活動を通して、生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るようなことが大切です。

その際、「数学的な見方・考え方」を働かせながら、日常の事象や社会の事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決し、学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの学習の充実を図ることが大切です。

「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編」p.162を基に作成

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に役立つコンテンツ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るためのコンテンツなど、今すぐ使えるコンテンツが満載です。

佐賀県教育センター

サイト内検索

検索ワードを入力してください

- 各種研修
- 受講のための情報
- 受講者へのお願い
- オンデマンド受講者専用ページ
- 駐車場の利用について
- 申込等各種手続
- 授業に役立つコンテンツ
- 授業に役立つ実践研究
- 学習評価の進め方
- SAGAせ〜る指導案
- 学習状況調査

「さがんば」(佐賀県学習問題)

これまでの佐賀県小・中学校学習状況調査を基に作成
児童生徒が、学習eポータルにサインインして、MEX
上で学習することができます。

I 教師用マニュアル (PowerPoint版 / PDF版)

II 児童生徒用マニュアル (PowerPoint版 / PDF版)

III 問題一覧 ※令和6年3月15日更新

小学校 国語 小学校 社会 小学校 理科

中学校 国語 中学校 社会 中学校 理科 中学校 英語



「さがんば」(佐賀県学習問題)
児童生徒用マニュアル

※このマニュアルのせている画面は、実証用学習eポータルを参考に作成したイメージ画像です。

1. 「さがんば」(佐賀県学習問題) 児童生徒用マニュアル

「さがんば」(佐賀県学習問題) って何ですか?

「さがんば」(佐賀県学習問題) とは、授業や家庭で、学習eポータルを使い、オンライン上で学習することができる佐賀県が作成した問題です。いろいろな問題に取り組んで、学習内容の理解を深めていきましょう。また、主体的に取り組んで、「学力」もつけていきましょう。

2. 学習eポータルにサインインしよう 児童生徒用マニュアル

学習eポータルにアクセスして、IDとパスワードを入力してください。

「サインイン」をクリックして、ログインしてください。

「MEXCBTテスト」をクリックしてください。

※「サインインしたあとの画面」と「MEXCBTテスト」の書き方は学習eポータルによってちがいます。

MEXCBT

「さがんば」(佐賀県学習問題) 数学 中2 連立方程式の活用04 問題: 1/1

太郎さんと花子さんは、数学の時間に次の問題を解いています。

問題

ある市では、清掃活動に参加したボランティアの人数を調べています。今日のボランティアの人数は250名で、昨日と比べると、大人のボランティアの人数は20%減り、子どものボランティアの人数は40%増え、全体では50名増えていました。昨日の大人と子どものボランティアの人数を求めなさい。

花子さんがつくった連立方程式

$$\begin{cases} x + y = 200 \\ \end{cases}$$

花子さんがつくった連立方程式の空欄に当てはまるものを、次の中から1つ選びなさい。

○ $\frac{80}{100}x - \frac{140}{100}y = 50$

○ $-\frac{80}{100}x + \frac{140}{100}y = 50$

○ $\frac{120}{100}x + \frac{60}{100}y = 50$

○ $-\frac{20}{100}x + \frac{40}{100}y = 50$

○ $\frac{80}{100}x + \frac{140}{100}y = 50$

表1

	大人(人)	子ども(人)	合計(人)
昨日	x	y	200
今日	$\frac{80}{100}x$	$\frac{140}{100}y$	250

これまでの佐賀県小・中学校学習状況調査問題を基に作成されたC B T問題です。学習eポータルにサインインして、MEXCBT(メクビット)を使い、オンライン上で学習することができます。